

子供の未来応援基金が大切にしていること

(審査の視点：事業 A・B 共通部分)

■ 計画性

採択された事業の目的を実現するための事業計画・資金計画が適正かつ合理的であること

■ 連携

地域における多様な関係者を巻き込み、採択された事業の社会的意義を高めるとともに効果的に実施する工夫があること

■ 広報

採択された事業の実施・効果に関する積極的な情報発信や広報の工夫を行うこと

■ 継続性

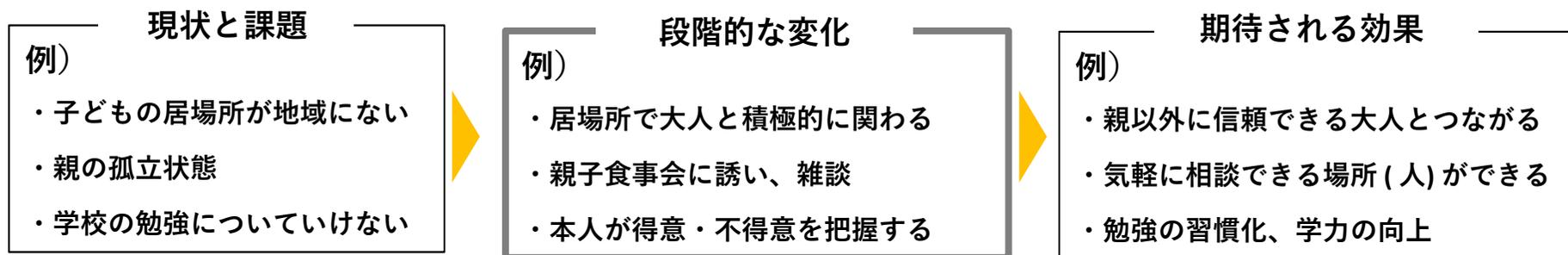
採択された事業の終了後の事業展開の見通しについて、今後の団体活動の発展が期待できる、一定の計画性があること

事業の実施中にはどう意識したらよいのでしょうか？ 36

〈計画性〉 目標を具体化する

手引き
P29・30

■ 成果目標「こうなったらいいな」と「現状」の間にある変化を段階的に把握



👉 目標設定及び実行上の注意点

目標は、支援対象者のニーズに基づき設定するようにしてください。
実行上の注意点としては、事業を実施していくなかで、当初想定していた目標や期待される成果とは異なる方向性が見えてくる場合があります。
その際は、支援の対象者一人ひとりにとっての安心安全を主眼に事業を推進し、その結果を共有いただくようお願いいたします。期中において、そうした状況が生じた場合は団体内で話し合いの上、必要に応じて要望書に記載した「事業内容」や「数値目標」の見直しについてご相談ください。

〈計画性〉 状況を把握する

手引き
P31

■ 団体内部や連携先とともに定期的な事業の点検（振り返り）や、成果（変化等）を把握する際には、活動時の記録が役立ちます。事業の内容にあわせて、「活動記録シート」を作成しましょう。記録する項目の検討にあたっては、簡単なフォーマットとし、記録を継続できるよう工夫することがポイントです。

「活動記録シート」の例

活動日	参加者名	活動中にどんな行動がみられたか	気になったこと	確認された指標(※)	その他、スタッフ内で共有・確認したいこと
4/18	Aさん	・自分から調理を手伝う 様子がみられた	・母親の帰りが遅 いと相談あり	②、③	・母親に必要な言葉かけや支援の紹介の仕方
	Bくん				
	Cさん				

【団体内で話し合っただめた指標】

- ① スタッフやボランティア等、親以外の大人を頼れている
- ② 活動に対し意欲的である
- ③ 不安なことを相談することができる

〈計画性〉 成果把握・普及

手引き
P24~27

■ 期待される成果を確認する設問を

(例) 子どもの居場所 保護者への事後アンケート

目的 このアンケートは、当団体の今後の活動の参考とさせていただきます。ご協力をお願いします。

1. 回答者の方の属性についてうかがいます。

【性別】 男性 女性 【年代】 ~20代 30代 40代 50代~

2. 今回の事業の満足度について教えてください。(1つ選択)

とても満足 満足 やや不満足 不満足

上記回答を選んだ理由を教えてください。(自由記述)

3. 子どもの「家事を手伝う姿勢」はどのくらい変化がありましたか。

1 2 3 4 5 1 2 3 4 5

参加前 参加後

(低い) (高い) (低い) (高い)

その変化について具体的なエピソードがあれば教えてください。

4. 親子カフェに参加後、子どもはどんなメニューを作るようになりましたか。

回答例：
たまご焼き、カレー、

5. より良い居場所にしていくために何か必要だと思いませんか。

質問票以上です。ご協力ありがとうございました。

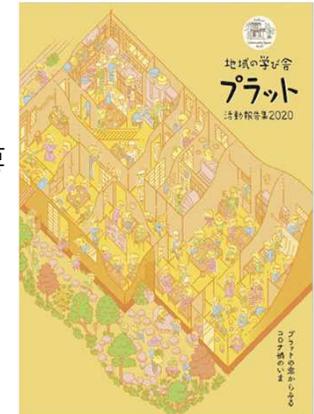
利用者満足度のポイント
満足度の調査を行う場合にはその選択肢を選んだ理由を把握。

変化を測るポイント
子どものやりたい事について聞いている質問で、その変化や、その具体的な内容について把握。

事業の改善のポイント
事業をより良くしていくためには率直な意見を収集することも大切。

■ 誰に向けて成果を伝えたいか

(報告書の例)
・ R2年度WAM助成
NPO法人 ダイバーシティ工房



■ 他地域での実践を後押しする成果発信



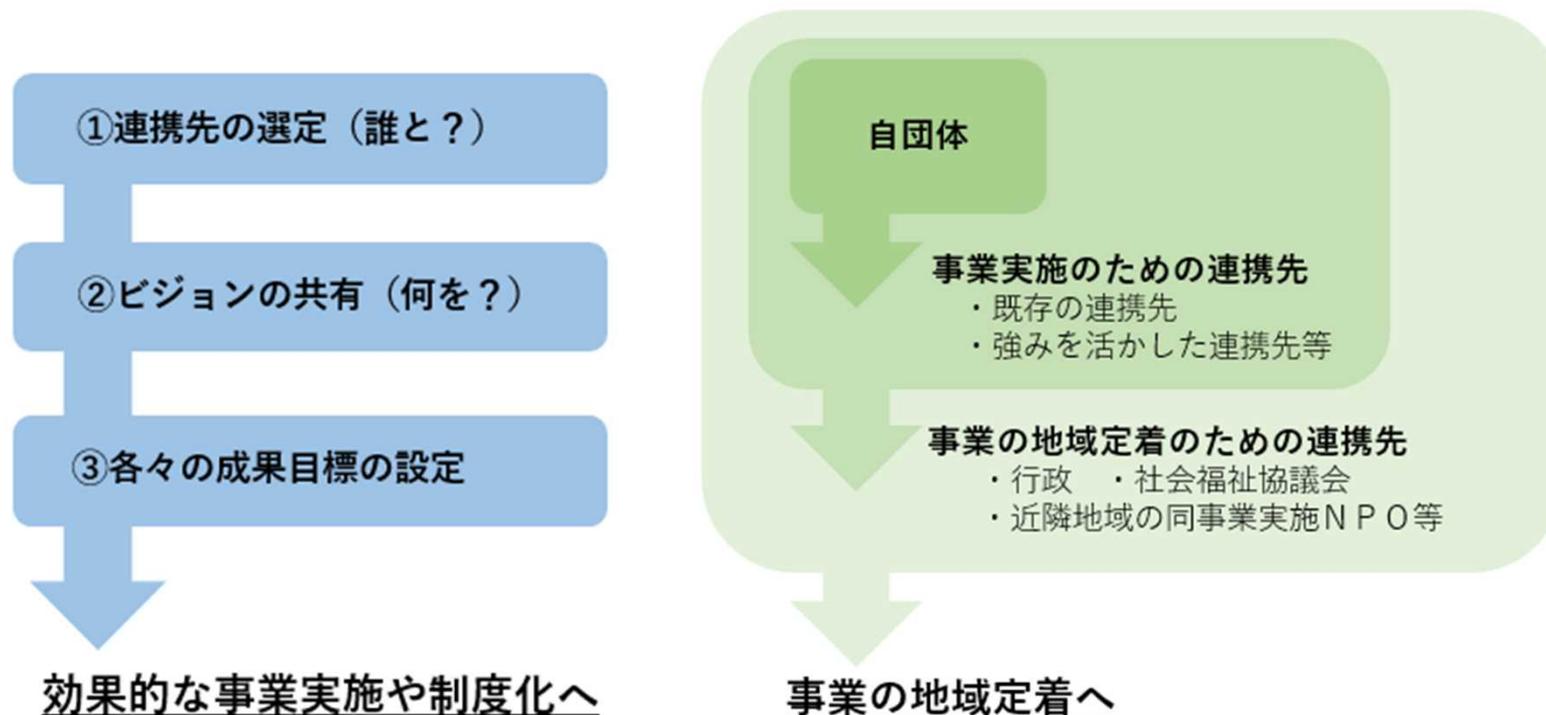
※WAM助成の成果物は電子図書館「e-ライブラリー」でどなたでも閲覧することができます

〈連携〉

事業の地域定着に向けた連携

手引き
P20

- 自団体と連携団体の「強み」を活かしあう形となっている
- 連携団体と「ビジョン」を共有する機会をつくる
- 自団体・連携団体各々が担う役割に目標を設定する



〈広報〉 情報発信と配慮

手引き
P20～23

- 「誰に、何を、なぜ、どのようにして」伝えるか対象者の属性で分類し、適切な情報発信の内容や手段を選択
- 写真や氏名などの個人情報を掲載する際には、本人や保護者の同意を得たうえで、容易に個人が特定できないよう配慮が必要

広報媒体の例



〈広報〉 支援表示について

手引き
P21～22

■ 支援事業で作成する成果物には「団体名」と「支援表示」を必ず明記してください。支援の表示がみられない場合は、製作経費は支援対象経費から除外されますので、ご注意ください

【支援表示の方法】

① 文字で支援表示を行う場合

子供の未来応援基金の支援を受け実施しています

② 支援マークを含め表示を行う場合

※支援先団体専用ホームページからデータをダウンロードすることができます。

(https://www.wam.go.jp/hp/kodomomiraikikin_6th_dantai/)

●ホームページ掲示用・チラシ等印刷物用には以下のバナーを使ってください。



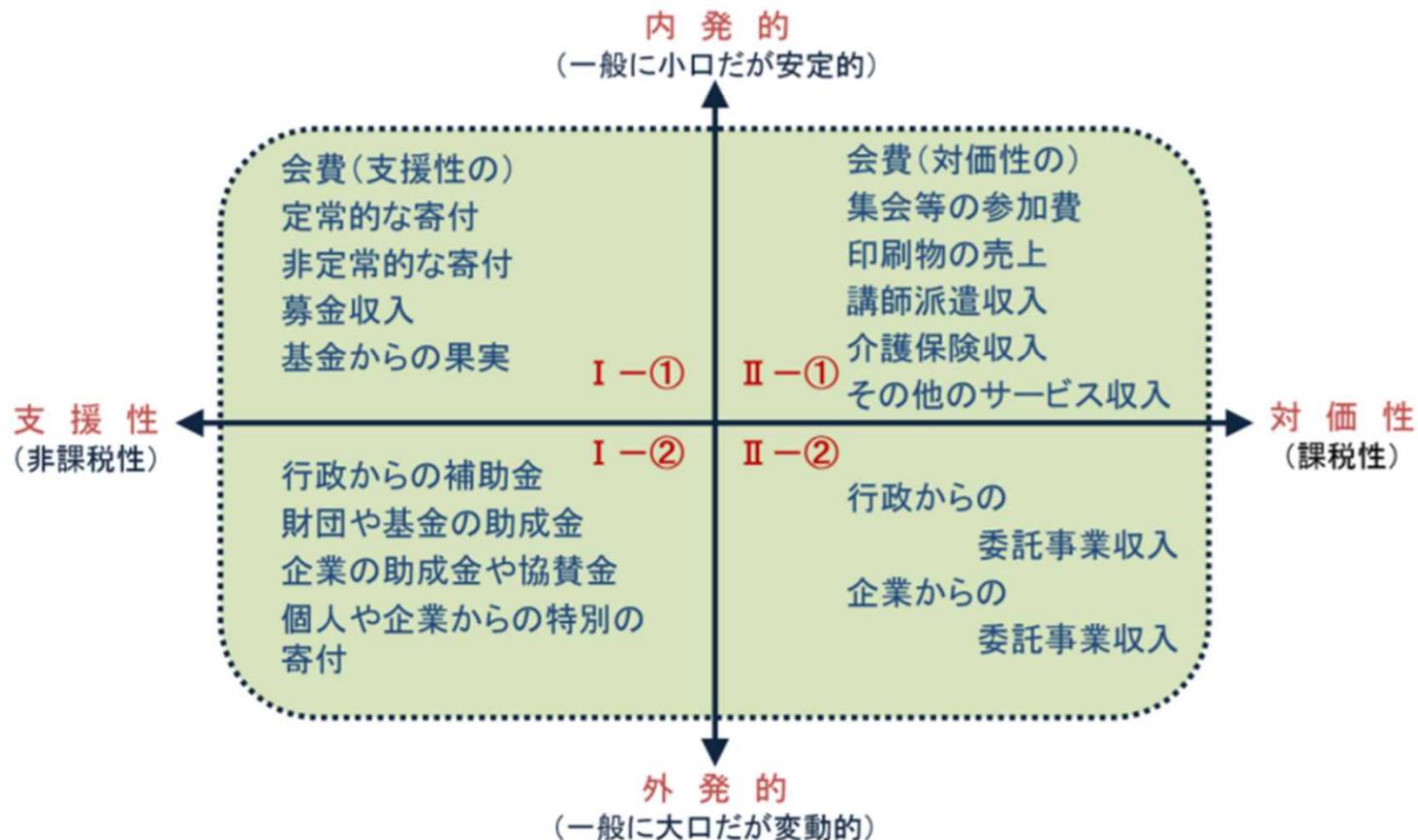
※ 印字のフォントは作成物のバランスを考慮し、著しく小さいものは避けてください。

※ 原則、上記の表示としますが、これに抛り難い場合は、別途、お問い合わせください。

〈継続性〉 事業継続への備え①

手引き
P32

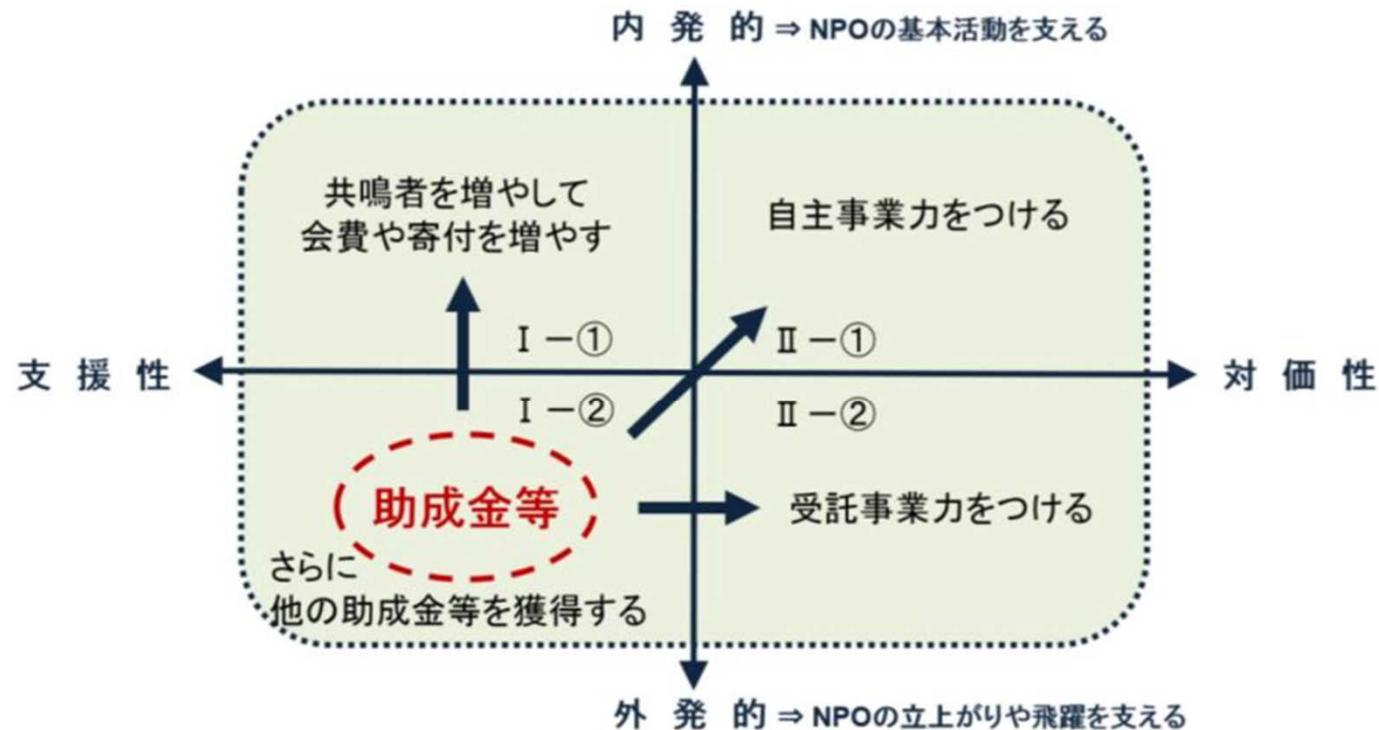
NPOを支える財源の構成 —財政面から組織基盤を考える—



〈継続性〉 事業継続への備え②

手引き
P32

助成金を組織基盤の強化にどう活かすか？



・助成金はI-②の財源

⇒その財源で、どう効果的な活動を展開し、組織の基盤を固めるか

⇒その成果を、I-①、II-①、II-②の財源の拡充にどう活かすか

16. 12. 13 WAM助成シンポジウム・山岡義典氏発表スライドより

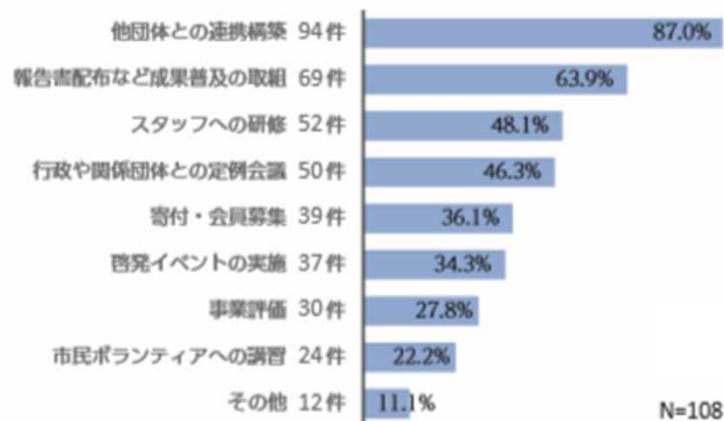
〈継続性〉

事業継続への備え③

- W A Mが実施している別の助成事業（W A M助成）の事業終了後1年半経過後の調査では、さまざまな波及効果がみられます。
- 「他団体との新たなネットワークの構築」や「継続的な協力者の増加」にいかにつながるか、事業期間中から意識して取り組んでください。

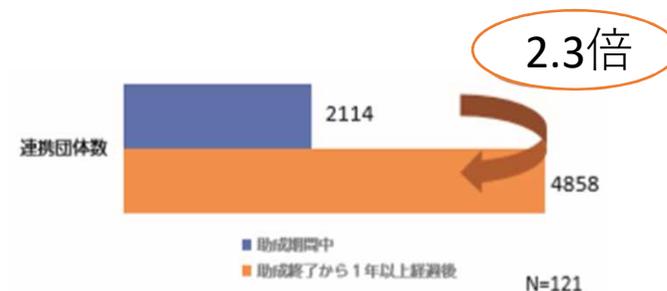
その後の団体活動や組織に与えた効果（複数回答）

1年半経過後も事業を継続している団体のうち87%が、助成期間中の「他団体との連携構築」が現在の継続状況につながっていると回答しました。



連携団体数の変化と連携による効果

1年半経過後の団体に、助成期間中からの連携・ネットワーク団体数の変化について調査を行ったところ、平均2.3倍の拡大がみられました。



調査対象：令和元年度W A M助成事業実施団体132団体 総回答数：121団体 回答率91.7%

その他の留意事項

(ご一読ください)

手引き
P20～25

■ 連携先への委託の取扱

(手引きP.20 5-(2))

- ・業務委託契約の締結が必要
- ・委託内容を整理した契約金額内訳書が必要

※委託の割合が総事業費の50%以上となった場合は、事業自体が支援対象外となりますのでご注意ください

■ 成果物への支援表示

(手引きP.21-22)

- ・「団体名」と「支援表示」を必ず明記
- ・成果物等は完了報告時に提出

■ 成果物発行時の注意点

(手引きP.23)

- ・発行者は「支援先団体」とする
- ・連携団体の名称のみの表示はNG
- ・作成・発行年月日は支援対象期間内の日付
- ・無料頒布が原則のため、価格表示は禁止

■ 利用者アンケート

(手引きP.24-25)

- ・研修会、講習会、シンポジウム、展覧会、スポーツ大会などを実施される場合において実施を依頼
- ・アンケートの実施が困難な場合は、実施前後の対象者の変化を文章でまとめる等により、成果を把握

WAM連絡システムをご活用ください



- 団体担当者とWAM担当者が個別にやりとりができる掲示板です。
- 50MBまでのファイル送受信が可能です。活動写真やチラシ、報告書等、WAM担当者とぜひ共有してください。
- 支援先団体同士で、イベント告知などの情報交換もできます。

支援金申請書兼請求書に登録するメールアドレスをご記入ください。
登録手続きが完了しましたら、ユーザーID・パスワードを連絡いたします。

事務局による活動紹介の例

各地の支援団体

取組事例 NPO法人子どもの生活支援ネットワークこ・はうす [和歌山県]

ひとりひとりの子供が個人として尊重される社会をつくりたい

生活に困難を抱える地域の子供たちを対象に、安心して過ごせる居場所づくりを行っています。みんなで食卓を囲んでおしゃべりしたり、遊んだり宿題したり、そんな当たり前の時間と人間関係が豊かな生活体験となって、元気な若者に育ってくれることを願っています。

また、それぞれの活動を通して貧困問題の解決をめざします。

子供の未来応援基金の支援による活動紹介

・居場所事業

昨年度までの1か所・月6回から、新たに1か所増やし、活動日も月8回です。家庭的な夕食と安心して暮らせる居場所の提供を通して、日常生活を支援する。学生ボランティアによる学習支援にも力を入れる。安心感や自己肯定感を育むことで、学習意欲を支えたい。

・関係機関との連携

近隣小中学校のスクールソーシャルワーカー、ファミリーサポートセンター、市生活支援課、子ども総合支援センター、子ども食堂などと必要に応じて情報共有を行い、連携を深めます。

・ファミリー手

おやつや教材を持ってひとり暮らし家庭などに定期的に届けます。近況を確認し、必要な支援物資や居場所の活用につなげます。



子供から大人まで一緒に食べて遊んで、宿題をして過ごします。異年齢集団の中で育ちあう子供たちの姿に、大人も元気さもらっています。

国民運動HPにて団体情報の掲載

ご寄付をいただきました皆さまへ

子供の未来応援国民運動 Monthly Report <2022年1月>

日頃より子供の未来応援基金にご寄付をいただきまして誠にありがとうございます。皆さまよりお預かりいたしましたご寄付につきまして、子供たちの支援のために大切に活用させていただきます。Monthly Reportでは、ご寄付の活用状況などについてご報告まいります。

<Topics>

困難を抱えている家庭を地域で支援 <子供の未来応援基金支援団体「子ども食堂すこやかプロジェクト」>

子ども食堂すこやかプロジェクト(青森県)は、ひとり親家庭や経済的に困難を抱えている家庭を対象に、私財市内で子供食堂を運営している2016年設立の任意団体です。第4回子供の未来応援基金(2020年度)の支援事業では、温かい食事と学習支援を提供する子供食堂を15国開催し、延べ259人の親子が参加しました。「大学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんが勉強を優しく教えてくれる」「秋のトウモロコシごはんやホットケーキが美味しかった!」という子供たちの声が寄せられています。子供食堂は、子供の未来応援基金に加え、市民からの寄付や食材の無料提供、運営に携わる延べ222人のボランティアの協力によって成り立っています。事業に多くの市民が参加することが、地域で目に見えない子供の貧困の実態を共有することにつながっています。第5回子供の未来応援基金(2021年度)では、地域で子供の居場所づくりに取り組んでいる団体との連携の強化に力を入れています。行政や関係機関の協力が得られるようになり、支援の輪も広がっています。今後は、複雑な課題を抱える子供にも支援をさらに届けられるよう、地域のネットワークを強化して、地域全体で子供の貧困対策に取り組んでいきます。

「ブックドライブ2021 古本募金」を開催しました! 読み終えた本の寄付が、子供たちの支援につながります

2021年12月1日~31日の間、内閣府、文部科学省、経済産業省において「ブックドライブ2021」が実施されました。この「ブックドライブ」は、職員が持ち寄りつづけています。子供たちの未来応援基金へ、職員が持ち寄りつづけています。

寄付者へのマンスリーレポート

国民運動 facebook

事務局においても、活動や事業の成果を積極的にPRします。

子供の未来応援基金 取組事例紹介

子供の未来応援基金の取組事例は、子供の未来応援国民運動HP
[\(https://www.kodomohinkon.go.jp/case/\)](https://www.kodomohinkon.go.jp/case/) に掲載されます。

各地の支援団体

北海道・東北 関東甲信越 中部 近畿 中国・四国 九州・沖縄

支援団体トピックス

「子供の未来応援基金事業」に掲載された実績のある支援団体をご紹介します。

北海道・東北

- 北海道 (6)
- 青森県 (3)
- 岩手県 (5)
- 宮城県 (17)
- 秋田県 (2)
- 山形県 (1)
- 福島県 (6)

関東甲信越

- 茨城県 (4)
- 栃木県 (6)

各地の支援団体

取組事例

NPO法人子どもの生活支援ネットワークこ・はうす [和歌山県]

ひとりひとりの子供が個人として尊重される社会をつくりたい

生活に困難を抱える地域の子供たちを対象に、安心して過ごせる居場所づくりを行っています。みんなで食事を囲んでおしゃべりしたり、遊んだり宿題したり、そんな当たり前の時間と人間関係が豊かな生活体験となって、元気な若者に育ってくれることを願っています。

また、それぞれの活動を盛り上げて貧困問題の解決をめざします。

子供の未来応援基金の支援による活動紹介

- ・居場所事業
 昨年までの1か所・月6回から、新たに1か所増やし、活動日7月8日とします。家庭的な夕食と安心して過ごせる居場所の提供を通して、日常生活を支援します。学生ボランティアによる学習支援にも力を入れます。安心感や自己肯定感を育むことで、学習意欲を支えます。
- ・関係機関との連携
 近畿小中学校のスクールソーシャルワーカー、ファミリーサポートセンター、市生活支援課、子ども総合支援センター、子ども食堂など必要に応じて情報共有を行い、連携を深めます。
- ・ファクトリー等
 おやつや食材を持ってひとり親家庭などに定期的に届けます。近況を確認し、必要な支援制度や居場所の利用につなげます。



子供から大人まで一緒に食べて遊んで、宿題として過ごします。異年齢集団の中で育ちあふ子供たちの姿に、大人も元気をもらっています。

掲載内容の作成にご協力をお願いします。(作業依頼：4月予定)

WAM担当者より ひとつこと

■ 基金の特徴を活かして

本基金は、内閣府、文部科学省、厚生労働省とWAMが運営しており、「自治体等の行政との連携」を促進する効果が期待されています。そうした基金の特徴を活かして事業を実施してください。

■ 他団体とのネットワークを

今年も本基金により、全国各地で子供を取り巻く課題に対応する民間福祉活動が取り組まれます。採択となられた134の団体の皆さま同士がこれを一つの契機として、情報交換など、双方向の連携が進むことを願っています。

■ WAM担当者にご相談ください

団体ごとにWAMの担当者がついています。事業や資金の計画変更の相談や手続き等の他、事業の方向性の検討などお気軽にご連絡ください。悩みも言葉にすると整理できることがあるかもしれません。

WAMリソースをご活用ください

■ 過去の優良事例を掲載



WAM助成レポート
(優良事例先訪問レポート)



事業評価報告書(令和4年1月)
(WAM助成の評価)



電子図書館 (e-ライブラリー)
(過去の事例概要・報告書)



■ 事業計画立案時のヒントを掲載



WAM助成シンポジウム
(2021) 開催報告
(行政との連携)



オンライン学習会
(2021) 開催報告
(地域との協力関係)



■ 事業継続・資金調達・連携・評価のヒントを掲載



NPOの民間福祉活動
に役立つヒント集
(事業運営のヒント)



資金調達セミナー
(2017) 開催報告
(助成金について)



その他、
過去のWAM主催イベントの
開催報告はこちらから↓



**ご不明な点がございましたら、
どうぞお気軽にご相談ください。**



事務の手引き(PDF版)や申請様式などは
以下のページからダウンロードできます。

https://www.wam.go.jp/hp/kodomomiraikikin_6th_dantai/

独立行政法人福祉医療機構 NPOリソースセンター

〒105-8486
東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル9階

NPO支援課 : 03-3438-4756

FAX(共通) : 03-3438-0218

NPO振興課 : 03-3438-9942

月曜～金曜 AM9:00～PM5:00 (祝祭日を除きます)